

## 平成26年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

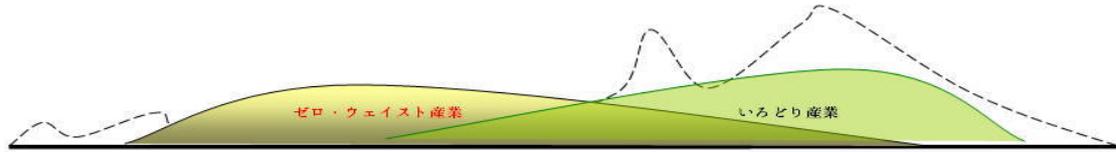
【テーマ：①—ハ】

1 事業名	
かつよう じゅんかんがたまち こうそうすいしんじぎょう ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型町づくり構想推進事業	
2 事業主体の名称	
かみかつちょう 上 勝 町	
3 新規・継続	
新 規	
4 補助金事業の期間	
平成26年10月 ～ 平成27年2月	
5 特定地域再生事業費補助金の種類	
特定地域再生計画策定事業	
特定地域再生計画推進事業	○
6 要望国費	
2, 185, 000円	
7 事業の概要	
<p>日本で初めてのゼロ・ウェイスト(ゴミゼロ)宣言を行った上勝町では、行政・町民が協働で34分別を始めとした様々なごみ減量化策を講じてきた。今まで、ゴミゼロをキーワードに町内で様々な取り組みを行ってきたが、元来ゼロ・ウェイストは、ゴミだけでなく、農業・林業・エネルギー・文化等人間が暮らしていく上で環境負荷をなくし、すべての分野において循環型を目指すものであり、その理念は、地方型コンパクトシティの実現ともいえる。未だ上勝町は、若者流出、高齢化及び出生率の低下により人口の社会減と自然減しており、今後、持続可能なまちづくりを推進して行くためには、全国、全世界から人材を受け入れることで本町を活性化し、過疎を止めることが何より重要である。</p> <p>地域を維持するためには、若者の流入人口を増やす必要があるが、歴史遺産や文化遺産等の観光資源が乏しい上勝町においては、都会型環境先進地ではなく、地方における「環境」や「循環型社会」といったキーワードにおいて世界一を目指し、このゼロ・ウェイストをいかに次ぐブランドにし、「見たい」「体験したい」「学びたい」「行ってみたい」「住んでみたい」と思わせる仕組みづくりが必要である。</p> <p>本事業では、ゼロ・ウェイストが分別制度という町民の認識を、ゼロ・ウェイストは持続可能社会にむけた町のブランドであるという啓蒙・啓発を推進していくと同時に、本町のこれまでの経験を糧にして上勝町のビジョンに沿った人材の確保、育成のため、外部起業家や企業とタイアップしながら産業化を目指し、2020年までにリサイクル率の向上、焼却量の低減、さらには地域活性化目標として、10企業の地元企業の組成または誘致、年間来町者1万人を目標にし、ゼロ・ウェイストをテーマにした産業化が生まれ育つ地域づくりを行う。</p>	

平成 26 年度特定地域再生構想の内容説明書

【テーマ：①—ハ】

1 特定地域再生構想の名称																																																																																																			
かつよう じゅんかんがたまち こうそう ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型町づくり構想																																																																																																			
2 事業主体の名称																																																																																																			
かみかつちょう 上 勝 町																																																																																																			
3 地域の現状・取組の経緯・取組の位置づけ																																																																																																			
3-1 地域の 背景・ 現状	<p>上勝町の総面積は 109.68km<sup>2</sup>、うち山林 97.10km<sup>2</sup>で林野率 88.5%の典型的な山村である。昭和 30 年合併当時には 6,265 人であった人口は、平成 26 年には 1,810 人と 2,000 人を割り、高齢化比率は、平成 2 年 28.6%、平成 7 年 36%、平成 26 年 2 月 1 日においては 50.39%と急激に高まっている。</p> <p>その為、全国に先駆けて高齢化社会でありながら循環型社会を形成できる持続可能なまちモデルを目指し、様々な取り組みを行ってきた。特に、近年環境問題が世界中で議論されている中、平成 15 年 9 月に日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言を行い、2020 年までに本町の焼却・埋め立てゴミをなくす宣言をしているが、これは日本初の試みである。また、上勝町は、株式会社いりどりによる地域ビジネス（葉っぱビジネス）で知られ、いりどりブランドとして日本中の過疎ビジネスのケーススタディーに利用されるほど知名度は高い。</p> <p>しかし、若者流出、高齢化及び出生率の低下により人口の社会減と自然減が依然として続いており、商工・農林業の後継者確保が困難となり、農地・山林ともに荒廃が進んでいる状況である。地域を維持するためには、若者の流入人口を増やす必要があるが、歴史遺産や文化遺産等の観光資源が乏しい上勝町においては、都会型環境先進地ではなく、地方における「環境」や「循環型社会」といったキーワードにおいて世界一を目指し、いりどりに次ぐこのゼロ・ウェイストをブランド化し、「見たい」「体験したい」「学びたい」「行ってみたい」「住んでみたい」と思わせる仕組みづくりが必要であり、他市町村を始め、全国、全世界から人材を受け入れ、ゼロ・ウェイストの理念に賛同し、本町の経験を糧にしてゼロ・ウェイストブランドを活用した産業化が可能な人材の確保・育成が課題となっている。</p> <p>“サステナブルアカデミー”は、このゼロ・ウェイスト宣言から始まった環境に対する高度な意識、また、同様に、本来ゼロ・ウェイストの理念でもある「持続可能性」を課題先進町である上勝町が全国に先駆けて行おうというプロジェクトであり、このゼロ・ウェイストをブランド化し、その魅力を発信する拠点として取り組んでいくものである。</p> <p>サステナブルアカデミーを創設することで、葉っぱビジネスに次ぐ新たなブランドを構築し、真の意味での「持続可能性」について取り組むことで、上勝町が日本の新たな地方のあり方を切り開くための大きな流れになると考えている。</p>																																																																																																		
	<p>&lt;人口の推移&gt;</p> <table border="1"> <caption>&lt;人口の推移&gt;</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>15歳未満</th> <th>15～64歳</th> <th>65歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S35</td><td>1,800</td><td>2,500</td><td>1,900</td></tr> <tr><td>S40</td><td>1,700</td><td>2,400</td><td>1,800</td></tr> <tr><td>S45</td><td>1,600</td><td>2,300</td><td>1,700</td></tr> <tr><td>S50</td><td>1,500</td><td>2,200</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>S55</td><td>1,400</td><td>2,100</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>S60</td><td>1,300</td><td>2,000</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>H2</td><td>1,200</td><td>1,900</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>H7</td><td>1,100</td><td>1,800</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>H12</td><td>1,000</td><td>1,700</td><td>1,100</td></tr> <tr><td>H17</td><td>900</td><td>1,600</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>800</td><td>1,500</td><td>900</td></tr> </tbody> </table> <p>&lt;人口動態(自然動態、社会動態)&gt;</p> <table border="1"> <caption>&lt;人口動態(自然動態、社会動態)&gt;</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>転出</th> <th>転入</th> <th>死亡</th> <th>出生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H15</td><td>80</td><td>75</td><td>30</td><td>10</td></tr> <tr><td>H16</td><td>75</td><td>70</td><td>35</td><td>10</td></tr> <tr><td>H17</td><td>70</td><td>65</td><td>40</td><td>10</td></tr> <tr><td>H18</td><td>65</td><td>60</td><td>45</td><td>10</td></tr> <tr><td>H19</td><td>60</td><td>55</td><td>50</td><td>10</td></tr> <tr><td>H20</td><td>55</td><td>50</td><td>55</td><td>10</td></tr> <tr><td>H21</td><td>50</td><td>45</td><td>60</td><td>10</td></tr> <tr><td>H22</td><td>45</td><td>40</td><td>65</td><td>10</td></tr> <tr><td>H23</td><td>40</td><td>35</td><td>70</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年度	15歳未満	15～64歳	65歳以上	S35	1,800	2,500	1,900	S40	1,700	2,400	1,800	S45	1,600	2,300	1,700	S50	1,500	2,200	1,600	S55	1,400	2,100	1,500	S60	1,300	2,000	1,400	H2	1,200	1,900	1,300	H7	1,100	1,800	1,200	H12	1,000	1,700	1,100	H17	900	1,600	1,000	H22	800	1,500	900	年度	転出	転入	死亡	出生	H15	80	75	30	10	H16	75	70	35	10	H17	70	65	40	10	H18	65	60	45	10	H19	60	55	50	10	H20	55	50	55	10	H21	50	45	60	10	H22	45	40	65	10	H23	40	35	70	10
年度	15歳未満	15～64歳	65歳以上																																																																																																
S35	1,800	2,500	1,900																																																																																																
S40	1,700	2,400	1,800																																																																																																
S45	1,600	2,300	1,700																																																																																																
S50	1,500	2,200	1,600																																																																																																
S55	1,400	2,100	1,500																																																																																																
S60	1,300	2,000	1,400																																																																																																
H2	1,200	1,900	1,300																																																																																																
H7	1,100	1,800	1,200																																																																																																
H12	1,000	1,700	1,100																																																																																																
H17	900	1,600	1,000																																																																																																
H22	800	1,500	900																																																																																																
年度	転出	転入	死亡	出生																																																																																															
H15	80	75	30	10																																																																																															
H16	75	70	35	10																																																																																															
H17	70	65	40	10																																																																																															
H18	65	60	45	10																																																																																															
H19	60	55	50	10																																																																																															
H20	55	50	55	10																																																																																															
H21	50	45	60	10																																																																																															
H22	45	40	65	10																																																																																															
H23	40	35	70	10																																																																																															



※ゼロ・ウェイスト産業といろいろ産業の関連イメージ  
 点線は年齢ごとの人口帯を示し、いろいろ産業は高齢者が従事している。若い世代が少ない為、ゼロ・ウェイストをブランド化することで、若手流入人口を増やし、いろいろ産業とは違う世代の産業を創出し人口を増やす。

3-2  
 取組  
 の経  
 緯・  
 位置  
 づけ

上勝町は、ゼロ・ウェイスト宣言を行ってから、上勝町、また NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミーを中心に地域住民とともに34 分別に取り組み、特にごみ処理について地道な活動を行ってきた。



ゴミステーションと当時の宣言の様子、また分別の町内に周知されている分別ポスター

このことから、特に3R(Reduce(リデュース:減らす)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再資源化))の分野では国内外から高い評価を得ている。また最近では、一般社団法人地職住推進機構により、ゴミの出ない買物を推進するために、量り売りの専門店である上勝百貨店がオープンするなど、ゼロ・ウェイストを活用した産業が芽生え始めている。このような取り組みはメディアにも取り上げられ、環境問題に対して様々な実情をドキュメンタリーとして映画化された2012年カンヌ国際映画祭の特別上映作品でもある「TRASHED」のパンフレットに上勝町の取り組みが掲載されるなど注目度は高まっている。



上勝百貨店の様子と TRASHED のパンフレット

また、昨年度行ったゼロ・ウェイスト推進計画策定事業では、これまで本町の隠れたブランドであったゼロ・ウェイストを中心に、詳細な現地調査やその可能性について考察を行った。1つは、先駆的、かつ、今後日本の各地で増えるであろう高齢社会に対応した廃棄物処理の基本方針の検討、もうひとつは、このゼロ・ウェイストブランドを日本に誇る環境教育施設「サステナブルアカデミー」の創設検討である。

**過疎高齢化社会の中での持続可能な廃棄物処理を模索する為に行った主な内容**

- 類似自治体との比較：処理コスト・リサイクル量の比較を行った。
- 一般廃棄物の組成調査：分別の課題となっている要因、また焼却ごみ増加の要因を調査した。
- 空き屋の遺品整理：組成調査や遺品整理に要する経費の算出を行った。
- 廃棄物調査分析委員会：廃棄物専門家を入れた委員会を開催し、調査内容の分析等を行った。
- 廃棄物処理コストの検討：他の市を参考に、分別を変更したことによるコストの比較を行った。
- 町民の排出方等仕組みの検討：ごみ処理に関するワークショップの開催、また実質行っている

6 1 種類の分別を変えた場合の影響を調べた。

再生計画策定事業の調査で明らかになった状況・課題について、再生計画推進事業では調査で得られた内容や現在の状況等を住民に報告するとともに、今後の取り組み方について一緒に話し合い、住民の抱えている課題や将来の町の目指す姿についてヒアリングを行い、持続可能な廃棄物処理計画作りを行う。

### サステナブルアカデミー創設の為にを行った主な調査内容

#### ○サステナブルアカデミーで学ぶ内容の検討

ユネスコの提唱する ESD（持続発展教育）の教育内容を参考にしながら、本町独自の教育プランを企画・検討した。

#### ○アカデミーの経済性検討

独立した教育機関として持続する為に、予測される受講者数・必要経費等から、独立採算性が取れる事業計画の設計を行った。

#### ○地元経済への効果測定

当アカデミー開校後、予測される来町者数・滞在期間、移住者数等を検討し、アカデミーの開校が地元経済に与える経済効果の測定を行った。

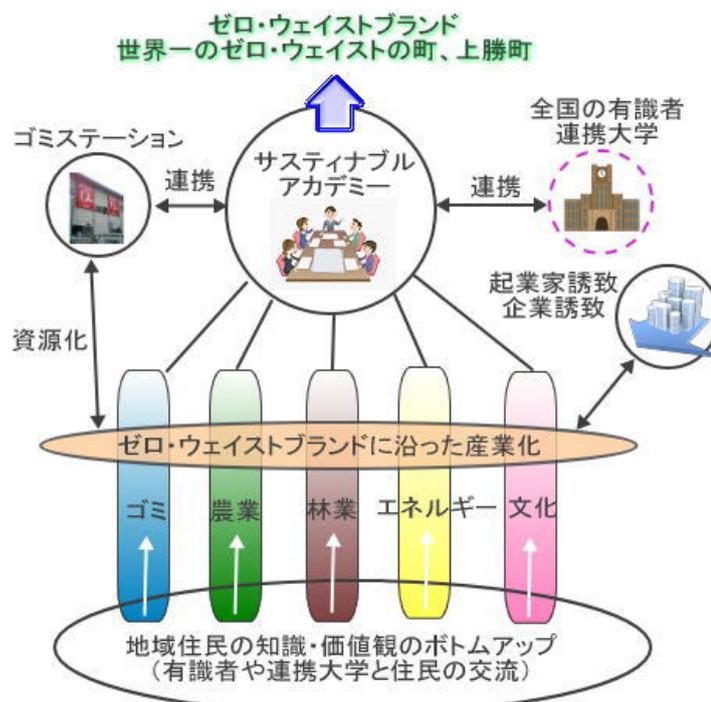
#### ○参画外部団体の検討及び折衝・調整

当アカデミーの運営に参画していただき、大学・企業等の検討・調査等を行い、また、運営母体へ参画していただける、当該団体に向け折衝・調整を行った。

#### ○運営母体設立準備

アカデミー運営母体の設立に向け、どのような組織が適しているのか、検討を行った。

再生計画推進事業では再生計画策定事業で得られた結果をさらに発展させるため、ゼロ・ウェイストをブランド化させ、地域全体への取り組みへとステップアップさせるための事業を行う。ゼロ・ウェイストが、ゴミゼロであるという住民の価値観を、ゼロ・ウェイストが誇るべき町のブランドであり、今後、町の活性化へ繋がるという産業化への構想を周知し、外部起業家や企業と連携しながら住民一体となった産業化へむけた取り組みを行う。



4 特定政策課題の内容及び課題解決に資する取組等	
4-1 項目	サステイナブルアカデミー創設事業
4-1-1 具体的な政策課題の内容	上勝町が取り組んできたゼロ・ウェイストをブランド化し、ゼロ・ウェイストが分別制度という町民の認識を、ゼロ・ウェイストは持続可能社会にむけた町のブランドであるという啓蒙・啓発を推進していくと同時に、本町のこれまでの経験を糧にして上勝町のビジョンに沿った人材の確保、育成を行うためにゼロ・ウェイストブランドの発信拠点である「サステイナブルアカデミー」の創設し、町全体がゼロ・ウェイストを活用した地域活性を目指す。
4-1-2 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率 75% → 80%</li> <li>・焼却量 年間 75t → 60t</li> <li>・新規事業所数 0事業所→10事業所</li> <li>・年間延べ視察・観光来町者 →1万人</li> </ul>
4-1-3 具体的な政策課題の解決に資する解決策・取組	<p>サステイナブルアカデミーでは、情報・叡智が集約される都心部と、今後、加速度的に過疎化、少子高齢化が進み、従来の社会システムが維持できなくなる田舎において、どのような形で、地方が存在するべきなのか。また、環境という大きな役割をどのように、都会と田舎は理解し合うのかを学び合うフィールドとして上勝町が日本で初めて手を挙げ、当該分野においてオピニオンリーダーになるプロジェクトである。このことが、上勝町自身のブランディングになっており、上勝町が抱える過疎化等の問題を解決し、日本中の環境教育のモデルとなる。</p> <p>主な取り組みは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型町づくり構想を推進する。</li> <li>・地域差性支援のためのプロジェクトチームを編成する。</li> <li>・都市部と連携し、環境教育ツーリズムを実施し、誘致を促進する。</li> <li>・サステイナブルアカデミーを創設する。</li> </ul>
4-1-4 活用事業	<p>①関係府省の支援措置を活用して実施する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>地域再生支援のための特定地域プロジェクトチームの編成</b></li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;上勝町及び連携組織  &lt;事業費&gt;未定  &lt;実施期間&gt;H27年度～H30年  &lt;実施内容&gt;上勝町のゼロ・ウェイストを世界一のブランドにするためにプロジェクトチームを組成する。</p> <p>②地域再生法に基づく支援措置を活用して実施する事業・該当の事業なし</p> <p>③連動施策を活用した事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型町づくり構想推進事業</b>  (特定地域再生計画推進事業補助金)</li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;上勝町及び町内組織  &lt;実施期間&gt;H26年度  &lt;事業費&gt;4,371千円  &lt;実施内容&gt;</p> <p>福祉の観点も取り入れた分別のし易さや、減量方法など上勝が目指すゼロ・ウェイストの姿について、住民を巻き込んだ勉強会・研修を行う。また今後の産業化にむけた住民への啓蒙啓発を行い、サステイナブルアカデミー創設にむけ、ブランディングやプロモーションについて連携企業のタイアップを推進し、具体的に計画を推進する。</p>

	<p>④ 自治体等事業主体の単独事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロ・ウェイスト推進事業</li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;上勝町及び町内組織  &lt;実施期間&gt;H26年度  &lt;事業費&gt;744千円 (財源 自主財源)  &lt;実施内容&gt;  焼却・埋立に頼らないゼロ・ウェイスト推進計画作成の為、住民、事業所、各種団体等へ廃棄物に関するヒアリング調査、及び平成25年度に実施した、特定地域再生計画策定事業の報告を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サスティナブルアカデミー実証事業</li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;上勝町及び町内組織  &lt;実施期間&gt;H26年度  &lt;事業費&gt;894千円 (財源 自主財源)  &lt;実施内容&gt;  サスティナブルアカデミーで実施予定の教育ツーリズムを試験的に実施し、様々な課題を洗い出し、より精度の高いカリキュラムを策定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サスティナブルアカデミー整備事業(過疎地域自立促進事業)</li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;上勝町及び町内組織  &lt;実施期間&gt;H27年度~H30年  &lt;事業費&gt;事業費予想 200,000千円 (財源 自主財源)  &lt;実施内容&gt;  H27年度に実施設計を行い、H28年度~H29年度にかけて、サスティナブルアカデミーを創設する。H30年度にはサスティナブルアカデミーが町の中心となり、ゼロ・ウェイストブランドを活用した産業の発信基地になる。</p>
4-1-5 特定政策課題解決の寄与度	今後、地域を維持するためにも、若者の流入人口を増やす必要があるが、歴史遺産や文化遺産等の観光資源が乏しい上勝町においては、都会型環境先進地ではなく、地方における「環境」や「循環型社会」といったキーワードにおいて世界一を目指し、いどりに次ぐこのゼロ・ウェイストをブランド化し、「見たい」「体験したい」「学びたい」「行ってみたい」「住んでみたい」と思わせる仕組みづくりが必要である。 ゼロ・ウェイストをブランド化するためには、ゼロ・ウェイストが分別制度という町民の認識を、ゼロ・ウェイストは持続可能社会にむけた町のブランドであるという啓蒙・啓発を推進していくと同時に、本町のこれまでの経験を糧にして上勝町のビジョンに沿った人材の確保、育成が必要である。これらの拠点としてサスティナブルアカデミーが住民と外郭団体や企業との連携を図る場となり、コミュニケーションを促進させ、ゼロ・ウェイストの推進のための好循環モデルを構築する。本事業を実施することで、上勝町において世界に通用するゼロ・ウェイストブランドを目指すことができ、上勝町が課題とする過疎に対して極めて有効な手段となる。

4-2 項目	ゼロ・ウェイストブランドに沿った地場産業育成推進事業
4-2-1 具体的な政策課題の内容	<p>現在、上勝町が取り組んできたゼロ・ウェイストは産業化がされていないと言える。近年、上勝百貨店がオープンするなど、産業化の芽が出始めているが、依然、地域産品を使った商品化やサービス化はできていない。そこで、地域資源使いながら、ゼロ・ウェイストブランドに沿った商品開発やサービスの開発が必要である。</p>
4-2-2 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率 75% → 80%</li> <li>・焼却量 年間 75t → 60t</li> <li>・新規事業所数 0事業所→10事業所</li> <li>・年間延べ視察・観光来町者 →1万人</li> </ul>
4-2-3 具体的な政策課題の解決に資する解決策・取組	<p>まず、町内の集落行事や会合で対話を行いゼロ・ウェイストブランドの基本方針を策定し、廃棄物を資源化していく為に、適切な整理方法の確立、作業員の養成、家具などの大きなものを再利用するストックヤードの確保、ごみステーションの整備なども行う。</p> <p>また、現在未利用となっている農作物や間伐材等を利用した未利用マテリアルの調査を行い、活性化に向けて、廃材や自然素材を利用したクリエイターやデザイナー等の招聘や企業誘致・連携など、ゼロ・ウェイストをテーマにした産業化が生まれ育つ地域づくりを推進していく。具体的には農山漁村活性化プロジェクト等を活用しながら、ブランドに沿った地場産業を育成していく。</p>
4-2-4 活用事業	<p>① 関係府省庁の支援措置を活用して実施する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（農林水産省）</li> </ul> <p>＜実施主体＞上勝町及び町内組織      ＜実施期間＞H27年度～H30年      ＜事業費＞未定      ＜実施内容＞</p> <p>ゼロ・ウェイスト理念に沿った地域資源（分別マテリアルや柚香等未利用農作物、間伐材等）を活用した商品開発やモノづくり拠点形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（農林水産省）</li> </ul> <p>＜実施主体＞上勝町及び町内組織      ＜実施期間＞H27年度～H30年      ＜事業費＞未定      ＜実施内容＞</p> <p>農家や林業家の所得向上のため、ゼロ・ウェイストブランドを活用した商品開発や環境配慮型のパッケージ Design の規格、販路開拓を行う。</p> <p>② 地域再生法に基づく支援措置を活用して実施する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当の事業なし</li> </ul> <p>③ 連動施策を活用した事業</p> <p>④ 自治体等事業主体の単独事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当の事業なし</li> </ul>

4-2-5 特定政策課題解決の寄与度	上勝町のゼロ・ウェイストの取り組みは、産業ベースになっていない。サステナブルアカデミーの創設と連携し、リメイクや地域の未利用材や環境配慮した商品開発、など、上勝町のビジョンに沿った高付加価値化が可能な人材が多数上勝町に流入し、産業を組成していく発展スパイラルを描くことが期待できる。これは、上勝町の地域ブランディングを活用した過疎の課題を解決するだけでなく、日本が世界に誇る環境分野の底上げとなり、同時に、その取組が日本中の過疎地に地域における循環型社会構築の事例となる。
--------------------	--

5 評価項目に対する内容	
5-1 国策への寄与	<p>循環型社会を目指す日本にとって、少子高齢化社会への対応は避けて通れない問題である。本事業においては、ゼロ・ウェイストの理念等を世に広く教育していくことで、現在よりも来町者・滞在者をさらに増やし、町内の経済活動が活性化される効果が期待される。それが結果として雇用を生み、資質の高い居住者を増やすことで、過疎高齢化に歯止めをかけることにもつながることが期待できる。</p> <p>また、今後、上勝町のゼロ・ウェイストブランドによって生み出される商品やサービスによって、全国に向けて、地方の環境のあり方を考えるきっかけにもなる。</p>
5-2 取組の先駆性・モデル性	<p>環境問題について本気で取り組む場、また循環型社会を実践的に学べる場を提供するサスティナブルアカデミーの創設は、「環境・循環型社会・学び」を核とした来町者、居住者を増加させる取り組みであり、また、それをブランド化し、産業化まで行う本計画は他自治体には見られないものであり、先駆性の高い取り組みである。</p>
5-3 多様な主体	<p>現状の分析・問題点の明確化には研究者の協力を得て、実際の施策は、町と住民団体・一般企業等が連携して意見を出し合い、地域の現状に即した内容を計画実施することで、住民自治の促進を図ることが出来る。</p> <p>本事業は、町内企業を中心として、外部からの参入を広く呼びかけ、多種多様な事業者・研究者の集合体で組織化し、また産業化においても、都市部と連携し、廃材や自然素材を利用したクリエイターやデザイナー等の招聘や企業誘致など、ゼロ・ウェイストをテーマにした産業化が生まれ育つ地域づくりを実施する。</p>
5-4 熟度	<p>本町では平成13年に34分別を始めてから、すでにリサイクル率最高約80%まで達成できており、特にゼロ・ウェイスト宣言後の環境に対する取り組みは全国一といっても過言ではない。このような背景には町民の絶大なる協力があり、全国でも極めて熟度が高い。また、年間4500人が視察に訪れ、世界各国からも研修及び取材が多く、対外的な評価も高い町である。</p>
5-5 その他	<p>本町では廃棄物だけではなく、再生エネルギーの自給自足を始め、木質バイオマスなど地域資源の利用、自ら集落再生などの推進を町民参加で進める「持続可能な美しいまちづくり基本条例」を平成25年3月に制定している。</p>
6 活用する規制の特例措置の内容	
該当なし	





## 8 対象地域

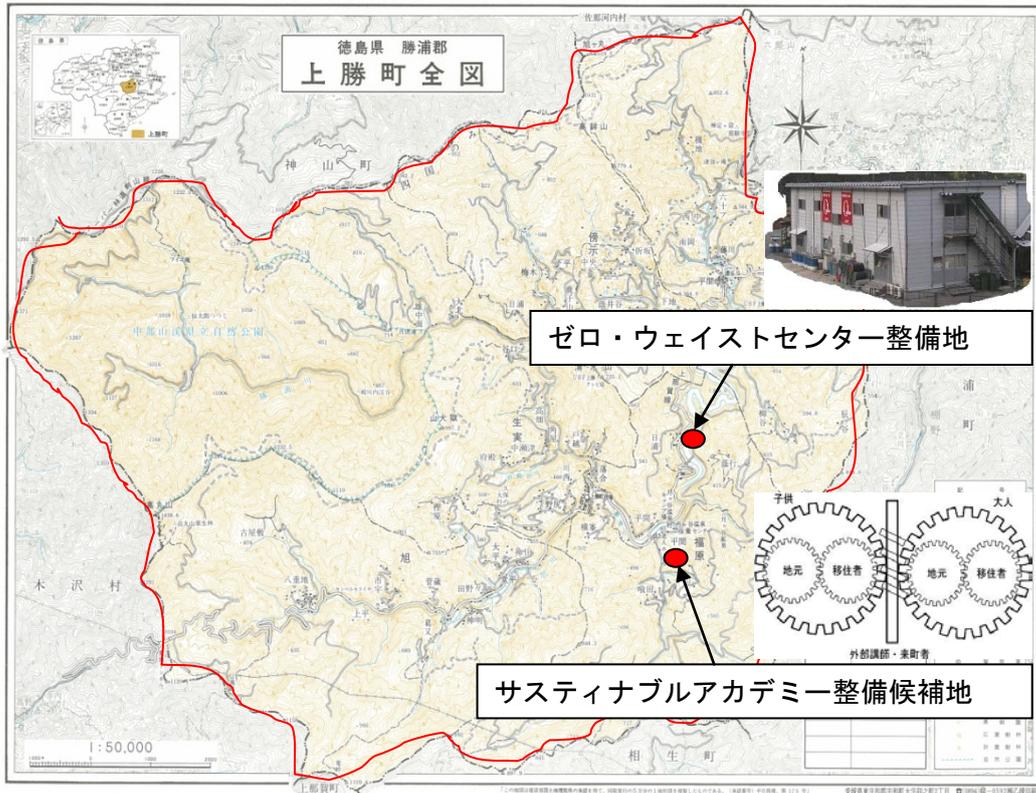
### 「ゼロ・ウェイスト」2003年9月19日宣言

未来の子供たちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のゴミをゼロにすることを決意し、上勝町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）を宣言します。

1. 地球を汚さない人づくりに努めます！
2. ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします。
3. 地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！



徳島県上勝町の人口：1,810人(H26.1.1) 世帯数：852世帯 高齢化率：50.39%  
面積：109,68k㎡ 内88.5%が山林 標高100~700mの間には大小55の集



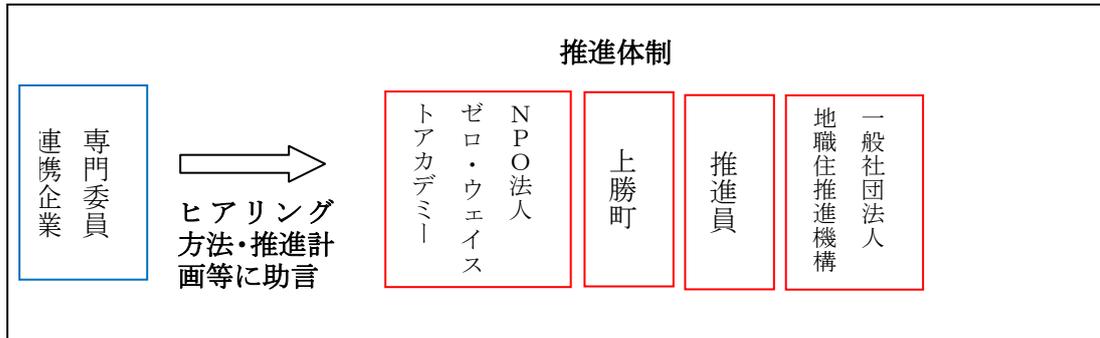
## 平成26年度特定地域再生計画推進事業の内容説明書

1 事業名	
かつよう じゅんかんがたまち こうそうすいしんじぎょう ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型町づくり構想推進事業	
2 事業主体の名称	
上勝町	
3 内容	
3-1 目的	2020年までに、サステナブルアカデミーを創設し、ゼロ・ウェイストブランドを活用した活動拠点を作り、世界中からゼロ・ウェイストに共感する一流を招き入れ、若者と地元民が地域を設計していく場を作り、産業化へ向け構想を推進する。
3-2 対象事業内容	<p>域内での取り組みとして、地域住民が取り組みを続けている分別について、より高度化を目指し、ゼロ・ウェイストが、すべてにおいて循環型を目指すという価値観の向上と、今後の産業化にむけたヒアリングを行い、2020年よりさらに先の100年後の上勝町におけるゼロ・ウェイストの状態(ライフスタイル)をまとめる。</p> <p>(1) ゼロ・ウェイスト勉強会・研修会 再生計画策定事業で調査した内容について住民に報告すると共に、ゼロ・ウェイストの姿について勉強会や、先進地視察を行い、今後上勝町を目指すゼロ・ウェイストの姿について一緒に考えていく。</p> <p>(2) 町内企業にヒアリング 事業ごみの分別から未利用マテリアルのヒアリング調査や、ゼロ・ウェイストブランドに賛同する町外起業家や企業が必要とする情報の提供、今後の産業化へ向けた具体的なタイアップの方法や企画を行う。</p> <p>(3) サステナブルアカデミーの施設設計概案 サステナブルアカデミー設立に向けた課題をまとめ、施設の規模や必要設備、又設立に向け課題抽出を行う。</p> <p>(4) サステナブルアカデミーの地元説明会の開催 サステナブルアカデミー構想について地元説明を開催し、情報共有及び、地域と連携したプログラムの内容を詰めていく。</p> <p>(5) 外部連携先との協議と連携強化 再生計画策定事業で連携先のチーム作りを強化し、検討をいただいている団体等と、再度協議を行うだけでなく、廃材や未利用材を活用したデザイナーやクリエイターとの連携を強化する。</p>
3-3 独自性	<p>ゼロ・ウェイストとは、本来、環境に配慮したライフスタイルであり、同時に、自然と共生し、真の循環型社会へ向けた社会への実現であり、新たな価値観の創出である。</p> <p>サステナブルアカデミーを通じて、環境問題について本気で取り組む場、また循環型社会を実践的に学べる場を提供することにより、「環境・循</p>

	環型社会・学び」を核とした来町者、居住者を増加させる取り組みは他自治体には見られないものであり、地域の取り組みをブランド化し、産業化するという極めて先駆性の高い取り組みである。
3-4 必要性等	<p>ゼロ・ウェイストが、行政主導型の、ごみ処理の追求だけでなく、本来の包括的な持続可能なライフスタイルの実現であり、同時に、上勝町が課題とする過疎を食い止める必要とする大きなブランドである。</p> <p>今後、加速度的に過疎化、少子高齢化が進み、従来の社会システムが維持できなる田舎において、どのような形で地方が存在するべきなのか、また、環境という大きな役割をどのような形で、地方が都会と田舎は理解し合うのかを学び合うフィールドを本町に作ることで、本町自身のブランディングになり、本町が抱える過疎化等の問題を解決し、日本中の田舎の過疎化等の問題の解決、環境教育のモデルとなる。</p>

#### 4 体制

本事業は上勝町のみならず、NPO ゼロ・ウェイストアカデミーと一般社団法人地職住推進機構が連携した推進体制を形成し、外部専門委員や連携企業と一体となって進める。



#### 5 事業費

要望国費

2, 185千円

#### 6 スケジュール

項目	年月	平成 26 年度							
		8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ゼロ・ウェイスト勉強会・研修会				←	→				
町内企業にヒアリング						←	→		
サステナブルアカデミーの施設設計概案				←	→				
サステナブルアカデミーの地元説明会の開催							←	→	
外部連連携先協議				←	→				